

令和6年度第1回習志野市通学区域審議会議事録

1 開催日時 令和6年8月23日(金)午後3時～午後4時

2 開催場所 習志野市庁舎3階 ABC 会議室

3 出席者

【会 長】	習志野市立津田沼小学校長	宮崎 晶子
【委 員】	習志野市議会議員	田中 慶子
	習志野市議会議員	寺川 貴隆
	習志野市政策経営部長	菅原 優
	習志野市立習志野高等学校長	田口 富一
	習志野市 PTA 連絡協議会	吉田 昌之
	習志野市 PTA 連絡協議会	福田 和洋
	習志野市青少年相談員連絡協議会	青島 章江
	習志野市連合町会連絡協議会	鈴木 とし江

【事務局】	学校教育部	部長	島本 博幸
	学校教育部	参事	野村 健一
	教育総務課	課長	早川 誠貴
	学務課	課長	寺嶋 耕一
	保健体育安全課	課長	荻原 洋
	学校教育部	主幹(教育総務課)	伊坂 尚子
	学校教育部	主幹(教育総務課)	西郡 隆司
	保健体育安全課	主任指導主事	黒田 みのり
	教育総務課	企画調整係長	鈴木 真理子
	教育総務課	財務施設係長	三橋 憲太郎
	学務課	管理主事	阿比留 孝雄
	教育総務課	主事補	小杉 秀次朗

4 議題

第1 会長の選出

第2 職務代理者選出

第3 会議の公開(非公開)

第4 会議録の作成等

第5 会議録署名委員の指名

第6 報告事項

(1) 小規模特認校に係る実籾小学校の認定実施について

(2) JR 津田沼駅南口地区再開発事業に伴い建設される高層マンションの小学校の学区に関する今後の進め方について

第7 その他(事務局連絡等)

5 会議資料

- ・資料1 習志野市通学区域審議会条例
- ・資料2 習志野市通学区域審議会委員名簿
- ・資料3 第1回習志野市通学区域審議会次第
- ・実籾小学校小規模特認校の認定について(報告事項(1)にかかる資料)
- ・JR津田沼駅南口地区再開発事業に伴い建設される構想マンションの小学校の学区に関する今後の進め方について(報告事項(2)にかかる資料)

6 議事内容

第1 会長の選出

委員の互選(指名推薦)により、宮崎晶子委員に決定した。

第2 職務代理者選出

会長の指名により、蓮一臣委員に決定した。

第3 会議の公開(非公開)

原則公開としたうえで、内容により公開・非公開の判断が必要になった際は、その都度議決することに決定した。

第4 会議録の作成等

要点筆記とし、会議名、開催日時、開催場所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員名及び所管課名を記載した上で、市ホームページ及び市役所グランドフロアの情報公開コーナーにおいて、公開することに決定した。

第5 会議録署名委員の指名

会長の指名により、田中慶子委員に決定した。

第6 報告事項

(1)小規模特認校に係る実籾小学校の認定実施について

【寺嶋学務課長】

実籾小学校の小規模特認校の追加認定について、資料に沿って報告する。

まず小規模特認校についてである。小規模特認校とは、児童数が減少している小学校の学校規模適正化を図るための制度で、「通学区域に関わらず、市内全域から選択できる学校」というものである。認定基準は、通常学級の実学級数が11学級以下の学校となっており、平成15年度に通学区域審議会制度について諮問、答申を受けて、平成16年度から向山小学校と秋津小学校、平成28年度から袖ヶ浦西小学校、令和3年度から、袖ヶ浦東小学校と香澄小学校が認定された。向山小学校については、認定基準を超える実学級数となったことから、令和5年度から地域特認校となっている。したがって、現時点の小規模特認校は、秋津小学校・袖ヶ浦西小学校・袖ヶ浦東小学校・香澄小学校の4校となっている。

次に小規模特認校の追加認定について説明する。新たに「実籾小学校」を小規模特認校として追加認定を行いたいと考えている。令和6年度現在の実籾小学校の学級数と、今後3年間の学級数の推計では、小規模特認校の要件を満たすこととなり、また、今後3年間の普通学級数の推移をみても香澄小学校学校と同規模となる。

続いて、小規模特認校の過去5年間の申請件数を説明する。例年、約10件から20件の間で推移している。新たに認定する実籾小学校を加えた小規模特認校5校の場所は、地図に示したとおりである。

次に小規模特認校を利用した児童が進学する指定中学校の見直しについて説明する。実籾小学校で小規模特認校を利用した場合の指定中学校については、現状の「住民基本情報に基づく中学校」から「住民基本情報に基づく中学校又は第二中学校か第四中学校」に変更する。

今後の見通しとしては、校長会議で各学校に伝えるとともに、市の広報やホームページでお知らせをする予定である。なお、令和7年度の新入生へは、就学時健康診断の通知にて保護者にお知らせする。説明は以上である。

【宮崎会長】

ただいまの説明に対して質問や意見はあるか。

【吉田委員】

少人数特認校の制度を利用し、指定学校の変更を行って転入学した児童数には、秋津小学校、袖ヶ浦西小学校、袖ヶ浦東小学校、香澄小学校という、ほぼ隣接している小規模特認校4校から転入学した人数も含まれるのか。人数が多い学区の児童が小規模特認校に来てくれた方がいいと思うが、そういった内訳のデータはあるのか。

実籾小学校は、近隣に小規模特認校がない。今後、実籾小学校が小規模特認校になるということを、次年度の新1年生に対して説明されていくと思うが、近隣の学校から来ていただきたいという意図があるのか。わざわざ遠いところから、子どもを通わせる親は、安全の問題もあるので少ないのではないか。

【寺嶋学務課長】

現在は、小規模特認校の制度を使って、小規模特認校の学区から小規模特認校の学区へ通われている方もいる。一方で、奏の杜のあたりの人数の多い学区から、小規模特認校を選んで通われている方もいるが、具体的な数字については持ち合わせていない。向山小学校が地域特認校であるが、向山小学校についても、多くの子どもがいる地区から通っている。今回実籾小学校が小規模特認校になることについては、周辺にまだ規模の大きい学校もあるので、周辺の学校から実籾小学校のよさを考え、選んでくださる方がいてくれたらと考える。小規模特認校については、各学校のアピールの冊子を就学時健診の資料の中に入れる予定であり、そういったものを見て選んでいただきたいという意図がある。

【寺川委員】

小規模特認校から小規模特認校に通っている児童が結構多いということ、以前データでいただいたと思うが、実籾小学校は現在の小規模特認校から離れているので、周りの学校から来ると思う。どの程度の人数になるか推計されているか。

【寺嶋学務課長】

まず、実籾小学校を選ばれる方の推計については、今回初めて東部地区の小規模特認校になるので、推計は出していない。ただし、隣接する学校から来るのではないかと、また、これまで小規模特認校を選ばれた方の数から見越して、最初の年は10名程度になるのではないかと推察している。

【田中委員】

地元であれば徒歩通学が基本だと思うが、他地域から小規模特認校を選び、少し離れたところから通学する児童はどのように通学をしているのか。

【寺嶋学務課長】

徒歩で通える範囲であれば、徒歩による通学をお願いしている。実籾小学校は、隣接している学区でも徒歩で通える地域もある。距離が離れていて、それでも通いたいという場合は、基本的には公共交通機関での通学をお願いするとことになると思う。

【宮崎会長】

通学路の安全ということについては、小規模特認校に限らずどの学校も共通に抱えている課題である。特に遠隔地からの通学ということになると、個別に校長の細やかな配慮が必要になるところかと思うので、お願いしたい。

第6 報告事項

(2) JR津田沼駅南口地区再開発事業に伴い建設される高層マンションの小学校の学区に関する今後の進め方について

【早川教育総務課長】

報告事項(1)は、小規模特認校という児童が減っている地域の対応の説明であったが、本件は、児童の大幅増加への対応についてである。コンパクトと言われる習志野市であるが、地域によって、人口や子どもの数が全然違うということが以前からあったが、より顕著になっていると考える。

日本全体で見ると、東京圏、名古屋圏、大阪圏に人が集中して地方が過疎化されていると言われるが、この小さな都市でも人口の偏りがあり、時代の変化にどのように対応するかをしっかりとやっていかなければならないと考えている。

JR津田沼駅南口地区の再開発事業が、現在、そしてこれからも行われようとしており、高層マンションの建設が予定されている。そちらの小学校の学区について今後の進め方を説明させていただくが、今日はあくまでも報告である。本日、皆様

からご意見を賜り、それを踏まえて検討し、今後審議を賜りたいということである。

スライド番号1をご覧ください。再開発事業の概要である。現在、JR津田沼駅南口の駅前にはバスロータリーがあり、さらに行くと、津田沼緑地、商業施設、あるいは習志野文化ホールがある。こちらについて、文化ホールや広場等の拡大をしながら、一体的な再開発を行うということである。その一角に住宅地の建設が予定されている。

この再開発には、4つの方針が定められている。立体的な都市基盤整備による交通結節機能を強化しながら、駅前の顔づくりをしていこうという方針である。現段階での想定イメージでは、現在、駅前にあるペDESTリアンデッキが拡幅され、その先に商業施設、文化ホール、オフィス等ができ、一角に52階建ての住宅が予定されている。

再整備事業の全体スケジュールである。再開発をするときには、都市計画として開発に関する様々な手続きが必要となる。今年度は、都市計画決定を行い、来年度事業認可、そして令和8年度から、既存の施設の解体が始まり、新築工事、そして令和13年度に建物の竣工を予定している。すなわち、解体を含めて6年間の工事を経て、事業が完了するといったスケジュールが想定されている。

スライド2をご覧ください。今回の議題である学区について説明する。谷津小学校の学区であるが、この地区は人口が急増しており、既に一部地域については、他の小学校の学区として指定している。具体的には、ブランドシティ津田沼奏の杜をはじめとする3つのマンションの1,342戸は、谷津南小学校を学区として指定している。この指定は平成26年2月25日からである。また、津田沼ザ・タワーの759戸については、向山小学校を学区として平成26年2月6日から指定している。また、バウス津田沼の101戸も、向山小学校に令和元年11月22日から指定したということである。

右側にあるのは、現在のそれぞれの学校の学級数と児童数である。谷津小学校が46学級1,298人、向山小学校が14学級327人、谷津南小学校が32学級928人となっている。この状況を踏まえ、今回、JR津田沼駅の南口に1,100戸程度のマンションが予定されているが、小学校の学区をどのようにしていくべきか、今後審議をしていきたいと思っている。

スライド3をご覧ください。今後の進め方である。この高層マンションは、現在の想定では1,100戸のうち、ファミリー向けが960戸、単身向けが140戸である。これを踏まえ、教育委員会としては、本日、通学区域審議会の皆様方に、状況報告という形をとらせていただいた。8月27日に教育委員会会議があり、同じ内容を報告する。

その後、児童数学級数の推計を教育委員会として行う。1,100戸と申し上げたが、実際にどのような人たちが住んで、どれぐらいの児童が通うことになるのかを、しっかり数字を算出し、整理した段階で、目途としては12月の教育委員会会議を経て、年明け1月にこの通学区域審議会に諮問させていただき、その後、審議を賜りたいと考えている。

実際、諮問したときには答申という形でお答えをいただき、最終的には教育委員会会議で学区を決定するが、その決定時期については、皆様のご審議の状況を踏まえ、進捗に応じて決めていきたいと考えている。説明は以上である。

【宮崎会長】

ただいまの説明に対して、質問や意見はあるか。

【青島委員】

通学区域審議会には、平成21年度に委員として参加させていただいた。その時は、丁度、奏の杜の再開発が始まった頃で、やはり学校の問題が出た。当初は谷津小学校が受け入れ可能ということで、そのまま学区変更なしで進んでいった。しかし、今はこのような状況になっている。

今回、このように数字を出していただいたが、学区に新たにマンションが建つ場合、該当する学校は受け入れが可能なのか。可能ではない場合は、他の学校を考えなければならないと思うが、学校ごとに、最大でここまで受け入れ可能であるという数字は出ているのか。

【早川教育総務課長】

今後の受け入れ可能な見込み数ということのご質問であると捉える。

教育委員会では、毎年、将来7年間から8年間にわたる児童生徒推計を出しており、その結果に伴って学級数も算出し、各学校の教室数も踏まえて受け入れ可能かどうかを判断する。今回もこの作業を10月から12月で行い、推計結果を示す予定である。また、各学校の受け入れ可能な人数、教室数も明示をして、ご議論を賜りたいと考えている。

【宮崎会長】

受け入れる学校に余裕があるのかがやはり心配なところだと思う。これから事務局の方でも必要な数字等は揃えたいということであったので、心配な点があれば、この機会に言っていただければ、事務局の方も調べる作業をしていくことになると思う。他に質問や意見はあるか。

【吉田委員】

現時点での想定としては、向山小学校が第1候補として挙げられているのか。新しい建物からの距離でいくと、向山小学校までは18分～20分ぐらいの通学時間と思われる。袖ヶ浦西小学校もあまり時間は変わらないと思うが、通学路の安全の問題などもあるだろう。もしかしたら津田沼小学校が一番近いかもしれない。あくまでも現時点での考えがあれば教えて欲しい。

【早川教育総務課長】

向山小学校という具体的な小学校名が挙げられたが、これまでの市議会でも、この再開発が挙げたときに、小学校はどうするのかという話が出ている。教育委員会としては、現時点の想定として、向山小学校というお答をさせていただいている。

一方で、広域的に見ると、吉田委員がおっしゃったように、津田沼小学校や袖ヶ浦西小学校も近接しており、今後ご提示させていただく資料には、近隣の小学校の数字や地図上の位置をしっかりと示した上で、広い観点からご審議いただきたいと考える。

【鈴木委員】

ここで見ていくと、タワーマンションに住む児童はほとんど、向山小学校とか谷津南小学校に通っている。谷津小学校の児童数は、令和13年にこのマンションが建つ頃には、どうなっていくのか。また、この地区は、一般の住宅の方達は谷津小に通うと思うが、そのことも含めて考えているのか。

今回のマンションの学区の変更を予定している中で、今後、新しくできる住宅が、今度は谷津小学校ということになると、様々な苦情が出るのではないかとということも気になる。そういったことも含めて、様々な視点で検討すること必要かと思うが、いかがか。

【早川教育総務課長】

本年度の谷津小学校の学級数は46である。教育委員会で昨年度、令和11年度までの推計を行った結果では、しばらく44～46学級である。今、鈴木委員の発言のとおり、その先の数字も算出して提示させていただきたい。また、近隣の小学校の児童数や学級数の推移も併せて、平らな目で見ていくという意見だったと受け止める。

【寺川委員】

奏の杜の話があったが、住民も非常に心配しているところだと思う。今ほど鈴木委員からもあったように、今後、谷津小学校の児童数はどうなっていくのか。場当たり的なことではなく、将来的なことまで考えながらやっていかなければならないと私も思う。その上で確認であるが、谷津小学校や向山小学校、谷津南小学校の受け入れ可能な最大学級数はどの程度なのか。

【早川教育総務課長】

奏の杜地区は、もうしばらく児童数が増える。現在、谷津小学校に関しては、ほぼ全ての普通教室を使用し、特別教室も普通教室に変えて対応しているところであり、既にいっぱいである。一方で、向山小学校については、現在14学級である。向山幼稚園が閉園し、向山こども園が開園した結果、幼稚園の校舎が丸々空いたので、予測としては今の建物で30学級ぐらいまで増やせるのではないかと想定している。谷津南小に関しては、現在、32学級であるが、今後の推計では令和8年度まで増える見込みである。

【寺川委員】

谷津南小については、現在32学級であるが、今後もう少し教室を使うことになるということか。

【早川教育総務課長】

そのとおりである。今後、もう少し児童数は増える見込みであり、学級数が増えれば、今の校舎で対応していくことになる。

【寺川委員】

今、1,100戸程度を想定している中で、ファミリー向けが960戸であるとのことであるが、実際、このマンションを販売する段階での価格帯によっても児童数の数は変わってくると思う。推計をしっかりとやっていただきたいと要望する。

第7 その他(事務局連絡等)

伊坂主幹より、次回の会議の開催は令和7年1月を予定しているとの連絡があった。